

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-251531
(P2001-251531A)

(43) 公開日 平成13年9月14日 (2001.9.14)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード(参考)
H 0 4 N 1/60		G 0 6 T 1/00	3 4 0 A 5 B 0 5 0
G 0 6 T 1/00	3 4 0	5/00	1 0 0 5 B 0 5 7
5/00	1 0 0	11/60	1 2 0 A 5 C 0 6 6
11/60	1 2 0	H 0 4 N 1/387	5 C 0 7 6
H 0 4 N 1/387		9/64	J 5 C 0 7 7
審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 6 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願2000-329052(P2000-329052)
 (22) 出願日 平成12年10月27日 (2000. 10. 27)
 (31) 優先権主張番号 特願平11-369339
 (32) 優先日 平成11年12月27日 (1999. 12. 27)
 (33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000005201
 富士写真フイルム株式会社
 神奈川県南足柄市中沼210番地
 (72) 発明者 竹本 文人
 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 富士写真フイルム株式会社内
 (74) 代理人 100073184
 弁理士 柳田 征史 (外1名)

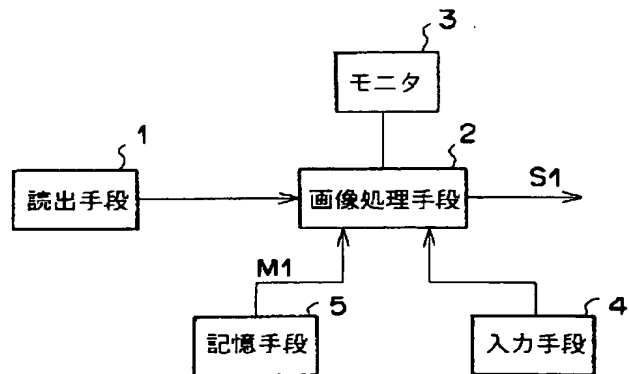
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 画像処理方法および装置並びに記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 画像中に含まれる例えば人物の顔画像の色および階調を所望とする色および階調を有するように変更する。

【解決手段】 記憶手段5には複数の色階調を有する対象画像を表す対象画像データが記憶されており、ユーザはモニタ3に表示された対象画像から所望とする色階調を有する目標画像を選択する。画像処理手段2に入力された人物の顔画像を含む画像データSはモニタ3に表示される。ユーザはモニタ3に表示された画像を観察し、目標画像と同一の色階調にしたい顔画像を含む領域を選択する。画像処理手段2は指定された領域から肌色領域を抽出し、目標画像および肌色領域の累積ヒストグラムを色階調を表す特徴量として抽出する。そして、この累積ヒストグラムに基づいて、指定された領域の色階調を目標画像の色階調となるように変更して、色階調が変更された処理済み画像データS1を得る。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 互いに異なる色階調を有する複数の対象画像からの所望とする色階調を有する目標画像の選択を受け付け、

表示された画像に対して領域の指定を受け付け、前記指定された領域を含む所望とする領域の色階調を前記目標画像の色階調に変更することを特徴とする画像処理方法。

【請求項 2】 前記複数の対象画像を所定の画像に基づいて予め作成することを特徴とする請求項 1 記載の画像処理方法。

【請求項 3】 互いに異なる色階調を有する複数の対象画像を記憶した記憶手段と、画像および前記複数の対象画像を表示する表示手段と、前記複数の対象画像からの所望とする色階調を有する目標画像を選択する選択手段と、前記表示手段に表示された画像に領域を指定する領域指定手段と、前記指定された領域を含む所望とする領域の色階調を前記目標画像の色階調に変更する変更手段とを備えたことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 4】 前記複数の対象画像を所定の画像に基づいて作成する対象画像作成手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 3 記載の画像処理装置。

【請求項 5】 互いに異なる色階調を有する複数の対象画像からの所望とする色階調を有する目標画像の選択を受け付ける手順と、表示された画像に対して領域の指定を受け付ける手順と、前記指定された領域を含む所望とする領域の色階調を前記目標画像の色階調に変更する手順とをコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【請求項 6】 前記複数の対象画像を所定の画像に基づいて予め作成する手順をさらに有することを特徴とする請求項 5 記載のコンピュータ読取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、カラー画像に含まれる特定の領域の色および階調を変更する画像処理方法および装置並びに画像処理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】デジタル電子スチルカメラ（以下デジタルカメラとする）において取得したデジタル画像データや、フィルムに記録された画像を読み取ることにより得られたデジタル画像データを、プリント等のハードコピーとしてあるいはディスプレイ上にソフトコピーとして再現することが行われている。このように、デジタル画像

データを再現する場合においては、ネガフィルムからプリントされた写真と同様の高品位な画質を有するものとすることが期待されている。

【0003】ところで、同じ人の顔であるのにプリント間で色再現性が異なったり、複数の人物を含む画像において光源の強さや光源の位置によって色再現性が異なることがある。このように、撮影により取得した画像に人物が含まれる場合は、最も注目される部分は人物の顔であり、高品質の写真を作成するためには人物の顔を適正な肌色となるように修正する必要がある。このため、モニタなどの表示手段に表示された人物を含む画像上において、肌色の画素をマウスにより抽出し、この抽出された画素値を中心として階調や色を補正して肌色を予め定められた好ましい肌色となるように変更する方法が提案されている（例えば特許第 9287885 号等；方法 1 とする）。また、表示された画像上において、変更したい色の領域を指定し、この領域内において最も好みに近いと思われる色を指定し、この指定された色を予め指定された色に変更する方法も提案されている（例えば特開平 8-221546 号；方法 2 とする）。さらに、画像から自動で顔領域を抽出し、この顔領域を予め定められた肌色に変更する方法も提案されている（方法 3）。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述した各方法においては、人物の顔の肌色を予め定められた肌色に変更しているため、変更後の顔が必ずしも好ましい肌色とはならない場合がある。また、顔の色のみを変更しているため、例えば晴天時に屋外で撮影することにより得られた人物の画像のように、顔のコントラストが高い場合には、これを修正することができなかった。

【0005】本発明は上記事情に鑑みなされたものであり、人物の顔などの画像中の特定の領域を所望の色および階調に変更できる画像処理方法および装置並びに画像処理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記録媒体を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明による画像処理方法は、互いに異なる色階調を有する複数の対象画像からの所望とする色階調を有する目標画像の選択を受け付け、表示された画像に対して領域の指定を受け付け、前記指定された領域を含む所望とする領域の色階調を前記目標画像の色階調に変更することを特徴とするものである。

【0007】ここで、「色階調」とは、色および階調のことをいう。

【0008】また、「領域」とは、表示された画像に含まれる、色階調を変更したい領域のことであり、具体的には人物の顔、空、あるいは緑葉などが挙げられる。

【0009】さらに、「指定された領域を含む所望とす

る領域」とは、指定された領域全体のみならず、指定された領域の中の特定の領域、指定された領域が含まれる画像全体、あるいは指定された領域とこれ以外の領域からなる領域をも含むものである。

【0010】また、目標画像の選択および領域の指定の順序は逆であってもよいものである。

【0011】さらに、「対象画像」とは、例えば人物の顔、空あるいは緑葉などのように、色階調を変更したい対象のサンプル画像を表すものである。この対象画像は、ユーザが所望とする色階調を選択可能なように、互いに異なる色階調を有する複数のものが用意されてなるものであり、この複数の対象画像からユーザの所望とする色階調を有する対象画像が目標画像として選択される。

【0012】なお、対象画像は、ユーザの好みの画像などの所定の画像に基づいて、予め作成するようにしてもよい。例えば、対象画像を人物の顔画像とした場合、デジタルカメラによる撮影、スキャナによるフィルムあるいは画像の読取りなどにより、ユーザの好みのタレントの顔画像を画像データとして取得し、この画像データについて色および階調を種々変更して、互いに異なる色階調を有する複数の対象画像を作成すればよい。

【0013】本発明による画像処理装置は、互いに異なる色階調を有する複数の対象画像を記憶した記憶手段と、画像および前記複数の対象画像を表示する表示手段と、前記複数の対象画像からの所望とする色階調を有する目標画像を選択する選択手段と、前記表示手段に表示された画像に領域を指定する領域指定手段と、前記指定された領域を含む所望とする領域の色階調を前記目標画像の色階調に変更する変更手段とを備えたことを特徴とするものである。

【0014】なお、本発明による画像処理装置においては、前記複数の対象画像をユーザの好みの画像などの所定の画像に基づいて作成する対象画像作成手段をさらに備えるようにしてもよい。

【0015】なお、本発明による画像処理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムとして、コンピュータ読取り可能な記録媒体に記録して提供してもよい。

【0016】

【発明の効果】本発明によれば、互いに異なる色階調を有する複数の対象画像から所望とする色階調を有する目標画像が選択され、さらに表示された画像に領域が指定される。そして、指定された領域を含む所望とする領域の色階調が目標画像の色階調に変更される。このため、画像中の指定された領域を含む所望とする領域をユーザが所望とする色および階調となるように変更することができる。

【0017】また、複数の対象画像を例えばユーザの好みの画像などの所定の画像に基づいて作成することにより、対象画像の選択を楽しみながら行うことができる。

【0018】

【発明の実施の形態】以下図面を参照して本発明の実施形態について説明する。

【0019】図1は本発明の実施形態による画像処理装置の構成を示すブロック図である。図1に示すように本実施形態による画像処理装置は、デジタルカメラにより撮像された、あるいはスキャナにより読取られた画像データSに対して処理を施して処理済み画像データS1を得るものであり、画像データSが記録されたメディアから画像データSを読み出す、あるいはネットワークを介して転送された画像データSを読み出す読出手段1と、読み出した画像データSに対して画像処理を施す画像処理手段2と、画像データSを表示するモニタ3と、画像処理手段2に対して種々の入力を行うためのキーボード、マウスなどからなる入力手段4と、後述する複数の対象画像を表す対象画像データが記憶された記憶手段5とを備える。なお、本実施形態においては、画像データSにより表される画像が人物の顔を含む画像であり、この画像に含まれる顔の色階調を変更するものとして説明する。

【0020】記憶手段5には、複数の対象画像を表す対象画像データが記憶されている。図2は対象画像データにより表される複数の対象画像を示す図である。図2に示すように、この対象画像データは、複数の色を有する同一人物の顔画像を表すデータQ1とデータQ1により表される各顔画像毎に設定された複数の階調を有する同一人物の顔画像を表すデータQ2とにより階層的に構成される。そして、まずデータQ1に基づいて色が異なる複数の顔画像がモニタ3に表示され、ユーザが入力手段4により所望とする色の顔画像を選択すると、その顔画像の色に対応してデータQ2に基づいて階調が異なる複数の顔画像がモニタ3に表示される。そして、ユーザが入力手段4により所望とする階調の顔画像を選択すると、その色および階調を有する顔画像が目標画像として設定される。この目標画像を表す対象画像データは目標画像データM1として画像処理手段2に入力される。

【0021】画像処理手段2は以下のようにして画像データSに対して画像処理を施す。まず、画像データSがモニタ3に表示される。図3はモニタ3に表示された画像を示す図である。図3に示すように、モニタ3には複数の人物の顔を含む画像が表示される。ユーザはモニタ3に表示された画像を観察し、色階調を変更したい顔画像を入力手段4を用いて選択する。図4は所望とする顔画像を選択した状態を示す図である。図4に示すように所望とする顔画像は矩形の領域R1により指定される。

【0022】このようにして領域R1が指定されると、画像処理手段2は、この領域R1内において予め定められた範囲内にある肌色の領域R1'を抽出する。これは、図5に示すようにCIELAB空間において円形で囲んだ領域を肌色領域Dとして定めておき、領域R1の

画像の画素値を C I E L A B 空間に変更し、肌色領域 D に含まれる画素値を有する画素を肌色領域 R 1' として抽出することにより行われる。

【0023】このように目標画像が選択され、さらに領域 R 1 において肌色領域 R 1' が抽出されると、目標画像および肌色領域 R 1' の累積ヒストグラムが作成される。図 6 は目標画像および肌色領域 R 1' の累積ヒストグラム H 1, H 2 を示す図である。なお、図 6 において累積ヒストグラム H 1 における横軸は左に向かうほど R G B 濃度が大きくなり、累積ヒストグラム H 2 における横軸は右に向かうほど R G B 濃度が大きくなる。また、累積ヒストグラム H 1, H 2 は画像データ S が R G B の色データからなるものとした場合、各色データ毎に作成されるが、簡便のためここでは各色データを 1 つの R G B データとし、この 1 つの R G B データから累積ヒストグラム H 1, H 2 を作成するものとして説明する。ここで、累積ヒストグラム H 1, H 2 はそれぞれ目標画像および肌色領域 R 1' の色階調の特徴を表すものであり、以下これを特徴量とする。

【0024】このようにして累積ヒストグラム H 1, H 2 が作成されると、この累積ヒストグラム H 1, H 2 に基づいて肌色領域 R 1' の色階調が、目標画像の色階調となるように色階調変更処理が行われる。この色階調変更処理は図 6 の波線に示すように累積ヒストグラム H 1 と累積ヒストグラム H 2 とを対応付け、累積ヒストグラム H 2 において R G B 濃度が P 1 となる画素の画素値が R G B 濃度 P 2 となるように、肌色領域 R 1' の色階調を変更することにより行われるものである。ここで、累積ヒストグラム H 1 を関数 $g(d')$ 、累積ヒストグラム H 2 を関数 $f(d)$ で表すと、図 6 の波線で示す処理は下記の式 (1) により表すことができる。

$$d' = g^{-1}(f(d)) \quad (1)$$

なお、肌色領域 R 1' のみの色階調を変更すると、その境界部分が不自然に見えるため、境界部分については連続的に色階調を変更することが好ましい。

【0026】次いで、本実施形態の動作について説明する。図 7 は本実施形態の動作を示すフローチャートである。まず、画像データ S が読み出されて画像処理手段 2 に入力される (ステップ S 1)。一方、記憶手段 5 から対象画像データが読み出されてモニタ 3 に対象画像が表示される (ステップ S 2)。ユーザは上述したように対象画像から所望とする色階調を有する目標画像を選択し、選択が完了した旨を入力手段 4 から入力する (ステップ S 3)。目標画像の選択が完了すると、画像データ S がモニタ 3 に表示される (ステップ S 4)。

【0027】ユーザはモニタ 3 に表示された画像を観察し、目標画像と同一の色階調にしたい顔画像を含む領域 R 1 を指定し、指定が完了した旨を入力手段 4 から入力する (ステップ S 5)。領域 R 1 の指定が完了すると領

域 R 1 に含まれる肌色領域 R 1' が抽出される (ステップ S 6)。

【0028】このようにして肌色領域 R 1' が抽出されると、目標画像および肌色領域 R 1' の累積ヒストグラム H 1, H 2 が作成される (ステップ S 7)。そしてこの累積ヒストグラム H 1, H 2 に基づいて上記式 (1) に示すように肌色領域 R 1' の色階調が目標画像の色階調と同一になるように変更されて処理済み画像データ S 1 が得られ (ステップ S 8)、処理を終了する。

【0029】このように、本実施形態においては、所望とする色階調を有する目標画像を選択し、この目標画像の色階調と同一になるように指定された領域 R 1 の色階調を変更するようにしたため、指定された領域 R 1 の肌色領域 R 1' をユーザが望む色および階調を有する画像となるように変更することができる。

【0030】なお、上記実施形態においては、領域 R 1 の肌色領域 R 1 のみの色階調を変更しているが、領域 R 1 全体の色階調を変更してもよく、領域 R 1 を含む所定範囲の領域あるいはモニタ 3 に表示されている画像全体の色階調を変更してもよい。

【0031】また、上記実施形態においては、領域 R 1 を矩形の領域として指定しているが、人物の顔の形状など、任意の形状を有するものであってもよい。

【0032】また、上記実施形態においては、目標画像および領域 R 1 の肌色領域 R 1' の色階調を表す特徴量として累積ヒストグラム H 1, H 2 を用いているが、これに限定されるものではない。

【0033】さらに、上記実施形態においては、目標画像の累積ヒストグラム H 1 を作成しているが、各対象画像について予め累積ヒストグラムを作成しておいて記憶手段 5 に記憶しておいてもよい。

【0034】さらにまた、上記実施形態においては、対象画像として同一人物の顔画像を用いているが、性別、人種による肌の色の差異等に応じて、複数種類の同一人物の顔画像を用意して目標画像を選択できるようにしてもよい。

【0035】また、上記実施形態においては、人物の顔画像について色階調を変更しているが、画像中に含まれる空の色や緑葉等についても、上記と同様に目標画像を選択し、この目標画像と同様の色階調となるように領域 R 1 の色階調を変更することもできる。この場合、複数の対象画像は空や緑葉について色階調が異なるものを表すものとなる。

【0036】さらに、上記実施形態においては、目標画像を選択する際に所望とする色を選択した後に所望とする階調を選択しているが、先に所望とする階調を選択し、その後所望とする色を選択するようにしてもよい。この際、先に階調が異なる顔画像がモニタ 3 に表示され、所望とする階調の顔画像が選択された後に、この階調に対応して色が異なる顔画像がモニタ 3 に表示される

こととなる。

【0037】また、上記実施形態において、図8に示すように、本実施形態による画像処理装置に対象画像を作成する対象画像作成手段6を設け、この対象画像作成手段6において対象画像データを作成し、作成された対象画像データを記憶手段5に記憶するようにしてもよい。この場合、対象画像データは例えば下記のように作成すればよい。すなわち、対象画像を人物の顔画像とした場合、デジタルカメラによる撮影、スキャナによるフィルムあるいは画像の読取りなどにより、ユーザの好みのタレントなどの顔画像を画像データとして取得し、この画像データを対象画像作成手段6に入力する。そして、対象画像作成手段6において、入力された画像データの色および階調を種々変更して、互いに異なる色階調を有する複数の対象画像データを作成する。

【0038】このように対象画像を例えばユーザの好みの画像などの所定の画像に基づいて作成することにより、対象画像の選択を楽しみながら行うことができることとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態による画像処理装置の構成を示すブロック図

【図2】対象画像を示す図

【図3】モニタに表示される画像を示す図

【図4】領域R1が指定された画像を示す図

【図5】Lab空間における肌色領域を示す図

【図6】累積ヒストグラムを示す図

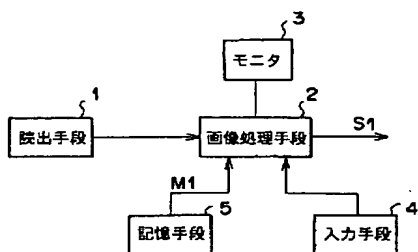
【図7】本実施形態の動作を示すフローチャート

【図8】対象画像作成手段を設けた画像処理装置の構成を示す概略ブロック図

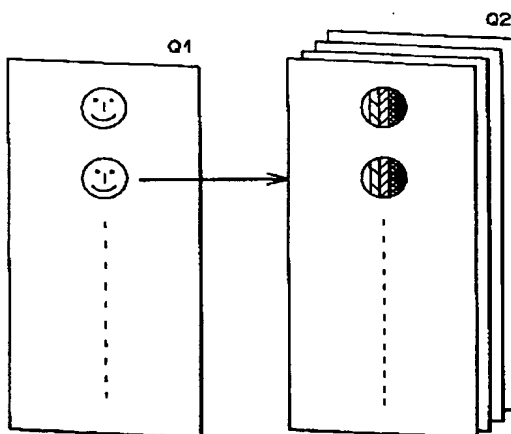
【符号の説明】

- 1 読出手段
- 2 画像処理手段
- 3 モニタ
- 4 入力手段
- 5 記憶手段
- 6 対象画像作成手段

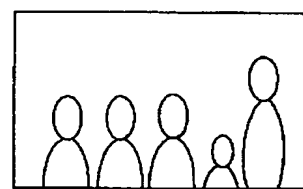
【図1】



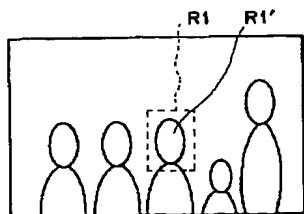
【図2】



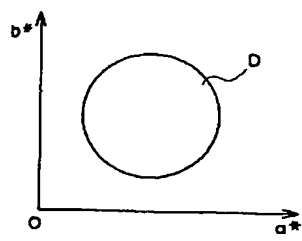
【図3】



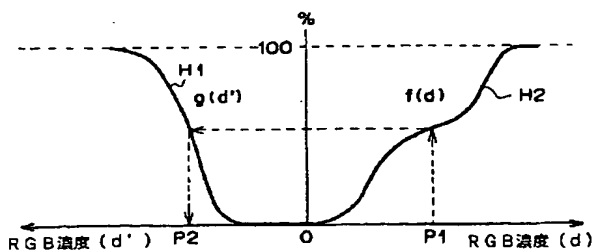
【図4】



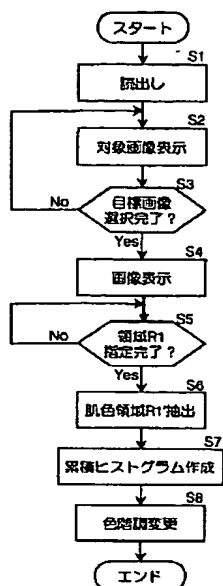
【図5】



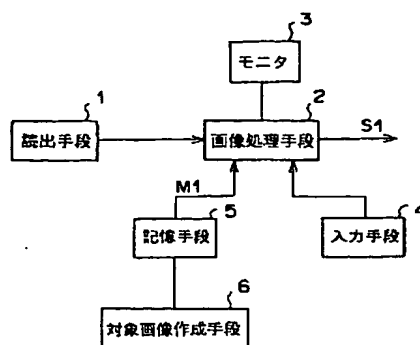
【図6】



【図7】



【図8】



フロントページの続き

(51) Int. Cl.⁷H 0 4 N 1/46
9/64

識別記号

F I

H 0 4 N 1/40
1/46

テームコード (参考)

D 5 C 0 7 9
Z

F ターム (参考) 5B050 AA09 BA06 BA15 CA07 DA04
EA06 EA08 EA09 FA02 FA03
FA09
5B057 AA20 BA24 BA25 CA01 CA08
CA12 CA16 CB01 CB08 CB12
CB16 CC03 CE11 CE17 DA08
DC19 DC25 DC36
5C066 AA03 AA11 BA20 CA17 DD01
EB03 EE01 GA01 KE01 KE07
KF05
5C076 AA26 CA02
5C077 LL16 LL17 MP08 PP32 PP37
PP58 PQ08 PQ19 SS01 SS05
SS06 TT02 TT09
5C079 LA02 LA10 LA12 LA31 LB12
MA17 NA05

BEST AVAILABLE COPY